

インターバンクの声（2016 年 12 月 2 日）

トランプラリーも一時ほどの勢いが無くなってきたが、ここ数日は石油輸出国機構（OPEC）の減産合意を受けたドル買い・円売りがもう一段のドル上昇に一役買っている。ただ12月に入り、さっそく米雇用統計の発表を控える朝だと言うのに、どうも今一つ相場の盛り上がりを感じられない。やや増加傾向になっている米労働省が発表の週間新規失業保険申請件数の結果が気になるが、今月の連邦公開市場委員会（FOMC）で利上げが決まるとの見方が変わることはなく、今晚の非農業部門就業者数の増加がよほど減少しない限り相場への影響がないと考えているからだろう。

昨晚のニューヨーク市場も米長期金利やニューヨーク・ダウの上昇が続き、米供給管理協会（ISM）が発表する11月米製造業総合景況指数も 53.2 と前月から上昇、米経済の強さに疑いを持たせるような材料は見えて来ない。

円相場も 114 円台で取引される時間が長くなっているが、米大統領選当日に一旦ドルが売られた部分を差し引いても、3 週間ほどで 10 円近くも円安が進んだことに対する懸念もあり、時々大きめの調整が見られるのは仕方ない。盛り上がりがないと思っ
ていても、いざ雇用統計の数字が良ければ 115 円超えを狙う人も出てくるだろう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。